幸せのレストラン

瀧源作　作

支配人　いらっしゃいませ。ようこそ「幸せのレストラン」へ。ご予約のお客様で？―山田様。承っております。お一人様でございますね。ではお席の方へご案内いたします。山田様！ご案内!!―（まだ準備ができていないと告げられる）―山田様、大変申し訳ございません。まだお席のご用意ができておりません。恐れ入りますが、もうしばらくこちらでお待ちいただけますでしょうか？―ありがとうございます。ところで山田様、なぜ手前共が幸せのレストランと呼ばれているかご存知でいらっしゃいますか？―おや、ご存じない。少しご説明させていただいてよろしいでしょうか。たくさんある例の中からお一つ、そのお方のお名前は・・・そう、お客様と同じ「山田様」とおっしゃいました。あれは今日と　同じ暑い夜のことでございました。

（食事を終えた客が3人笑っている）

客1　ね、やっぱりここのデザートはおいしかったでしょ

美香子　ほんと。アイスクリームがあんなふうになっちゃうなんて思っても見なかった

客2　俺なんて後2つはいけたと思う

客1　何いってんだよ。メインディッシュ美香子ちゃんの分まで食べていたくせに

美香子　あれは私が食べ切れなかったから食べてもらっただけよ

客2　この店今度俺彼女連れてくる

客1　あれ、お前彼女いたの？

客2　そのうち作る

美香子　会社の帰りにこんな素敵なところで恋人と食事ができたら最高ね

客1　そう、俺も紹介した甲斐があったよ

美香子　ありがとう

支配人　どうもありがとうございました。お味はいかがでしたか？

美香子　最高です

客2　お金が許せば毎日でも来たいくらいです

客1　そうなるよう早く出世しようね

客2　はいはい

美香子　素敵な彼氏が出来たら一緒に来ようと思います

支配人　またのお越しをお待ちしております

客1　ご馳走様

客2　ごちそうさま

支配人　お帰りはお気をつけて
客１２　ありがとう
（客１と２ははける）
美香子　本当に素敵な料理でした
支配人　ありがとうございまず。お客様
美香子　はい
支配人　お客様のその素晴らしい笑顔ならきっと素敵な殿方がおできになるでしょう
美香子　いやだぁ
（ハンカチを落とす）
美香子　さようなら
（美香子、はける）
支配人　お気をつけて
（優治、入る）
優治　ごちそうさま
支配人　ありがとうございます。お口に合いましたでしょうか？
優治　ええ、とっても
支配人　さようでございますか
優治　一人で来ても十分楽しむことができました
支配人　おや、そうでございますか
優治　なんというかスタッフの方々もいろいろ気を使ってくださって。料理を楽しむことができました。後でみなさんにもお礼を言っておいてください
支配人　かしこまりました。恐れ入ります
優治　では
支配人　ありがとうございました。只今外は雨が降っておりますので気を下さい
（優治、ハンカチを拾う）
優治　支配人、これ誰の？
支配人　あら
（美香子、入る）
美香子　すいません、ハンカチ落ちてませんでしたか？
支配人　あれ
優治　これ？
美香子　それ

支配人　こうして、お二人は運命の出会いとなりました。ハンカチひとつから始まる恋―
え？よくあるパターン？いえいえ、出会いとはこんなものでございます。お二人

は最初山田様の一目惚れという形ではございましたが、山田様の努力の甲斐あってようやくこうさいを始められたのでございます。その後お二人は徐々に距離を縮められ、とうとう山田様がプロポーズをする日がやってきたのです。緊張した面持ちの山田様ですが、はたしてうまくいくのでしょうか

支配人　山田様
優治　すみません。もうすこし・・・
支配人　山田様・・・そろそろ・・・
優治　ごめん。待った？
美香子　ううん、大丈夫ですよ。どうなさったんですか？
優治　着替えに手間取って・・・
支配人　山田様!!
優治　ああ。残業で
美香子　そうですか・・・お仕事大変そうですね
優治　そうそう。美香子さんはお仕事は？
美香子　大丈夫ですよ。私まだ入社して一年目ですし、もともとデパートそんなに仕事も多くありませんから
優治　そうですか・・そういえばこの前いった水族館覚えてる？
美香子　はい、楽しかったですね
優治　やっぱアレがすごかったよね
美香子　アレってアレですよね
優治　そう。マンボウ
美香子　わたし、マンボウって見るの初めてだったから感動しちゃった
優治　あのマンボウ、すごく大きくてかわいいマンボウだったよね
美香子　マンボウってあの水族館で一番の人気だそうですよ？
優治　まさにマンボウによるマンボウのためのマンボウの水族館って感じだったよねぇ
美香子　ところでマンボウって食べれるんですかね？
優治　マンボーウの煮付けとかマンボウ炒めとかあるんじゃないかなあ？
美香子　豆腐と食べたら・・・
2人　マンボウ豆腐みたいでおいしそうですね!!アハハハハ～
優治　なんか僕たち、やっぱり気が合いますね
美香子　そうですね。今まで遊園地、動物園、遊園地、動物園、また遊園地、動物園っていろんな場所に二人で行きましたけど全然意見が合わなかったのって映画館だけでしたよね

優治　ああ・・・そういえばそんなこともあったねぇ
美香子　私は「極道の妻たち」が見たいっていって
優治　僕は「タイタニック」がみたいっていってお互い一歩も引かなかったんだよなぁ
美香子　だけど結局は間をとってクレヨンしんちゃんととっとこハム太郎の二本立てにしましたよね
優治　二本立てだったからとってもトク太郎だったのだぁ～・・・クシクシ
美香子　それは、ギャグですか？
全員　（美香子以外）いいえ!!
優治　そういえばさ。まわりが子供ばっかだったからすごくうるさくなかった？
美香子　そうですね。けどまだ子供ですし、仕方ないじゃないですか
優治　けど僕にいきなりチョークスリーパーをかけてきた子供は絶対に許せないよ。僕たちの子供はあんな風になってほしくないね
美香子　えっ。僕たちの子供って？
優治　僕と美香子さんの子供
美香子　その・・・それってもしかしてアレですよね
優治　そう、マンボウ
従業員　ちがうでしょ!!
美香子　ちゃんとおっしゃってください
優治　はい、美香子さん。僕・・・と・・・け、け、・・・け・・・
従業員　結婚してください!!
優治　はい!!喜んで!!
従業員　ちがうでしょ
美香子　マンボウ？

支配人　いやぁ、この時は大変でございました。なにせ山田様の緊張ときたら見ているこちらまでがかたくなってしまうほどです。まぁ何はともあれお二人は結婚の約束を交わしたのでございます。しかし、結婚する前には一つ乗り越えなければならない大きな壁が・・・そう、ご両親への挨拶です。このときの山田様も緊張した面持ちでなにやら一波乱ありそうな様子でございました

支配人　山田様、お連れの方がお見えになりました
美香子　遅れてすみません
優治　お父さんとお母さんは？
美香子　今一緒につきました

（小澤美香子の両親が笑いながら入ってくる）

和貴　なかなか良さそうなレストランじゃないか

由紀子　ホントね

和貴　今度ぜひ一緒に来ような

由紀子　そうですね

美香子　山田さん？大丈夫ですか？

優治　はい

美香子　お父さん、お母さん、こちら山田さん

両親　コレ!!

優治　コレって何ですか!?

和貴　いえいえ、失礼

美香子　こちら山田優治さん。父と母です

優治　山田優治といいます

和貴　「美香子」の父の小澤です

由紀子　由紀子です

優治　本日はお越しいただいて有難うございました。支配人お願いします。

支配人　かしこまりました。小澤様

（皆、座る）

支配人　それでは料理のほうをお運びしてよろしいでしょうか。

優治　お願いします

和貴　あ、俺魚ダメだから

由紀子　うちの人お肉多めでお願いします

和貴　できるだけ脂っこいやつを

支配人　山田様より承っております。

和貴　えっ!!

由紀子　山田さん、美香子からお聞きになったの？

優治　はい、お父さんやお母さんの好きな食べ物は全部

和貴　私は君のお父さんじゃない

優治　すいません

和貴　それと出過ぎたことはしなくてよろしい

美香子　お父さん脂っこいの好きだから、魚が出てきたら食べられないじゃない

和貴　食べれるよ

美香子　サラダも食べられないし

和貴　食べれるよ、ボーイさん!

支配人　支配人でございます

和貴　支配人!!秋刀魚と鯖の煮付けもつけてくれ

由紀子　お父さん、そんなのこのレストランにあるはずがないじゃない
和貴　ないのか
支配人　いえ、ご用意させていただきます
和貴　ほれみろ、あるじゃないか
（支配人ワインを持ってきて注ぎ始める）
和貴　ところで山田君、私たちを招待してくれたのには何かわけでもあるんだろうね？
美香子　お父さん、それは話したでしょ
和貴　それはわかっとるよ、改めて彼のほうから聞きたいんだ
美香子　山田さん、ごめんなさい
優治　いえ、当然のことです
優治　改めましてお父さん
和貴　お父さんじゃないといっているだろ
優治　では小澤さん
和貴　ではいらない
優治　小澤
和貴　さんをつけろさんを
優治　小澤さん
和貴　そう
優治　ください
和貴　何を
優治　お嫁さん
和貴　うちの女房をくれというのか
由紀子　私でいいの？
美香子　お母さん
和貴　母さん
優治　お父さん
和貴　お父さんじゃないといっているだろ
優治　お母さん
和貴　俺はお母さんじゃない
優治　小澤!!!
和貴　呼び捨てにするな
優治　小澤さん
和貴　そう・・・で、なんだ!!!
優治　娘さんを僕にください
従業員　断る!!!
和貴　えっ!?えっえっ？

優治　君たちには関係ないだろ
和貴　美香子を嫁にくれというのか
優治　はい
和貴　年はいくつだ
由紀子　４８
和貴　お前じゃない。年はいくつだ
美香子　私は２３
和貴　お前でもない
優治　じゃあ誰ですか？
和貴　お前だよお前
優治　２８です
和貴　２８かぁ
優治　１０年たったら３８です
和貴　そんなことわかっておる
由紀子　私は１０年たっても４８よ
和貴　母さん
美香子　お母さん
優治　お母さん!!
和貴　お前のお母さんじゃない
優治　お父さん
和貴　お父さんじゃない
優治　小澤さんはおいくつですか？
和貴　５３だ
優治　１０年たったら６３かと
和貴　馬鹿にしてるのか
由紀子　お父さん
優治　お父さんったらオチャメ
和貴　母さん帰るぞ!!
由紀子　お父さん興奮しないで
支配人　お父さん落ち着いて
和貴　やかましい。山田君、君は娘のどこが気に入ったんだ
優治　すべてです
和貴　ふん、ありきたりな言葉だな
美香子　じゃあお父さんはお母さんのどこが気に入って結婚したの？
和貴　すべてだ
優治　ふん、同じありきたりじゃないですか

和貴　歳をとるとなぁ、すべてという言葉が本当にわかったうえで言うことができるものなんだよ
優治　僕もそうなりたいです
和貴　美香子
美香子　はい
和貴　お前は山田君のどこがよくて結婚しようとしてるんだ
美香子　かっこよくてたくましいところ
由紀子　これが!?
和貴　山田君、君はかっこよくてたくましいのか!?
優治　はい、そうです
和貴　本当にそう思ってるのか
美香子　そうよ。私にとってのヒーロー
和貴　お前小さいころお父さんのお嫁さんになるってあれほど駄々をこねていたじゃないか
由紀子　お父さんは美香子のヒーローだったのよね
美香子　全然覚えてない
和貴　お父さんは覚えているぞ
全員　お父さん
和貴　やかましい!!!この男が!!俺に似てるって言うのか!?
優治　努力します
和貴　お前は俺にはなれん
優治　美香子さんを僕にください
従業員　断る

支配人　大変なことになりました。このままではお二人は結婚できません。しかし、ご安心ください。この後山田様は根気強くご両親の元へ通われ、誠実な思いをお伝えになられたのです。始めは頑なに反対していたご両親でしたが、山田様に根負けし、とうとうお二人の結婚をお許しになられたのです。お二人の結婚生活それはもう幸せそのものでございました。めでたくお子様も誕生し、本日はお二人目のお子様の誕生のお祝いとして当レストランにお越しになったのでございます

和貴　べろべろべろべろ～ばぁ
優治　おじいちゃん
美香子　おじいちゃん

和貴　高い高い～。べろべろべろべろ～ばぁ
優治　おじいちゃん、危ないですよ
美香子　もうやめて、落としたらどうするの？
由紀子　大丈夫よ、みかこ
美香子　どこが大丈夫よ
由紀子　おじいちゃんは決して落ちないわ
美香子　おじいちゃんのことじゃないの
由紀子　おじいちゃん、美香子はおじいちゃんのことどうでもいいって
和貴　みかこ、最近お前はわしに冷たい
美香子　何で？
和貴　わしとこの赤ん坊とどっちが大切なんだ
美香子　もちろん赤ん坊よ
和貴　アンダルシア、お前の母さんは生みの親に対して冷たい
優治　おじいちゃん、アンダルシアって誰ですか
和貴　この赤ん坊の名前じゃないか。
優治　そんな名前つけてません
和貴　じゃあ名前は決めたのか
優治　まだです
和貴　ほらみろ、だったらアンダルシアにしなさい
由紀子　おじいちゃん、アンダルシアはよくないわ、私はアリエルと呼ぶわ
和貴　それもいいな
大輔　僕ピカチュウがいい
優治　お前、自分の妹をピカチュウピカチュウって呼べるのか!?
大輔　ピカチュウ、友達にも自慢できるよ、僕の妹ピカチュウだって
美香子　自分の妹をおもちゃにするのはやめなさい
和貴　ピカチュウピカチュウ、あああああ・・・10万ボルトの電圧はきついな
美香子　おじいちゃんやめてください、まだ首がすわってないんですから
由紀子　あなたはどんな名前がいいの？
美香子　もっと普通な名前がいいの
由紀子　例えば？
美香子　花子とか梅子とか
由紀子　いまどき「子」を付ける気？
美香子　それでもいいと思ってる
由紀子　だったら貞子にしなさい
美香子　そんな怖い名前つけられるわけないでしょ
優治　夜中にTVから髪の毛と一緒に出てきたらどうするんですか？

和貴　来る～きっと来る～
優治　おじいちゃんやめて下さい、もう夜中寝られなくなるじゃないですか
和貴　だいたい生まれて一週間もたつのにまだ名前を考えていないお前たちが悪いんだ
優治　考えてますよ、ただ僕と美香子の意見が一致しないだけです
大輔　お父さんが考えた名前すごいんだよ
美香子　子供が健康になるような名前ばっか考えるのよ
由紀子　どんな？
大輔　ミルク・・・ミロ・・・アロエ
支配人　はぁ？
大輔　ヨーグルト・・・ヤクルト・・・プリン
和貴　それはおかしじゃないか
優治　おかしいですか？
和貴　健康になるより虫歯になる
美香子　でしょ？やっぱり普通に私と同じように「子」がつく名前がいいのよ
優治　ミルクこ・・・ミロこ・・・アロエこ
和貴　まるで湖じゃないか
由紀子　じゃ琵琶湖もいいわね
優治　日本一の湖ですからね
和貴　びわこ～びわこ～今日からわしのことはびわこのおじいさんと呼べ
大輔　なんか仙人みたいだね
和貴　ハハハハ、それはいいな
美香子　びわこなんて嫌
由紀子　私イタリア人っぽい名前がいいわ
従業員　マルガリータ
従業員　カルボナーラ
従業員　ボンゴレ
大輔　アルデンテ
支配人　ペペロンチーノ
優治　やめてください。うちの娘を食い物にしないで下さい
和貴　ペペロンチーノ、辛口な女の子になりそうだな～
美香子　そんな名前付けません。漢字で書ける名前がいいです
従業員　卑弥呼
従業員　清少納言
従業員　春日局
大輔　静御前
支配人　建礼門院

優治　もう勘弁してよ
和貴　お前名前がたくさんあっていいな
優治　もう結構です
大輔　お父さん名前どれにする？
優治　もう名前は付けない
美香子　あなた
優治　この子は名前なんてなくたっていい
和貴　じゃ「ななし」ということか
優治　そうです
和貴　おめでとう!!ななし～、今日からわしのことを「ななしのおじいさん」と呼べ
大輔　なんかホームレスみたいだね
和貴　ハハハハ、それは嫌

支配人　いやはや、あの赤ん坊からしたらそれはそれは不安だったことでしょう。―え？それで本当に「ななし」になったかと？いいえ、名前はちゃんと普通につけられました。お二人のご趣旨を入れられて「マミー」と「子」で「万美子」という名前にお決めになりました。そして、お二人のお子様もすくすくと成長されたのでございます。しかし、子育てというものは幸せの中に苦労があるものです。そんな奥様の苦労に気づかないのが世の男性というものでしょう。山田様も例外ではございません。そうして奥様の不満も徐々に高まってゆき、些細なことがきっかけでお二人の間には亀裂が入ってしまったのでございます

優治　誤解だよ!!俺は浮気なんてしてない
美香子　隠さないで。最近どうもおかしいと思ったわ
優治　何が？
美香子　夜も遅いし、子供たちにはちっともかまってくれない
優治　だから、それは・・・
美香子　仕事のせいだっていうんでしょ
優治　そう。最近は会議や接待で忙しいんだ
美香子　まるでTVドラマの台詞ね
優治　だってしょうがないじゃないか
美香子　しょうがない？それもお決まりの台詞ね
優治　だったらどうやって言えばいいんだよ
美香子　この間の夜若い女性と歩いているところを大輔のお友達のお母さんが見たって言っ

てたわ
優治　いつ
美香子　忘れたわ
優治　どこで
美香子　思い出せない
優治　だれと
美香子　記憶にない
優治　だったら全然分かってないじゃないか
美香子　でも歩いてたのは事実よ
優治　あーそうか。一週間前の土曜日の夜のことか
美香子　そう、それ
優治　3丁目のスーパーの駐車場
美香子　それそれ
優治　事務課の亜衣子ちゃん
美香子　そう、一週間前の土曜の夜に3丁目のスーパーの駐車場で事務課の亜衣子ちゃんとあなたは歩いてた
優治　お前よく知ってるなあ
美香子　何でもお見通しよ。浮気はすぐばれる
優治　あれは亜衣子ちゃんが仕事上の悩みでスーパーでたまたまあってたまたま話を聞いていただけだ
美香子　不倫はそういうところから始まるのよ
優治　俺はそんな気ないって
美香子　あなたになくても向こうにあったら
優治　お前はTVの見すぎだよ
美香子　TVは何でもお見通し
優治　まいったな〜
美香子　あなたあのピンクのハンカチどうしたの？
優治　どれ？
美香子　キティーちゃんの刺繍のついてるあれよ
優治　ああプレゼントだよ
美香子　だれからの
優治　課長さん
美香子　課長がそんなの送るわけないでしょ
優治　ゴルフの景品だよ
美香子　あなたゴルフやらないじゃない
優治　いや、余ったから部長が

美香子　さっき課長って言ってたわよ
優治　そうだったっけ
美香子　本当は誰？
優治　人事課の幸子ちゃん
美香子　そう。スケジュール帳にハートのマークがいっぱい。あれは何？
優治　趣味だよ
美香子　なんの
優治　ちょっとオチャメな俺を表現したくて
美香子　あなた、やっぱり好きな人ができたのね
優治　じゃあ何か。部下の相談乗ってみたり人からプレゼントもらったりスケジュール帳にハートマークがあってメールBOXに不自然な消去があると浮気をしてることになるのか
美香子　女性からのメールがいっぱいあるの
優治　何で知ってるんだ
美香子　私には全部お見通しよ
優治　鋭い女だ
美香子　優希って誰？
優治　え？
美香子　友理奈は？絵里香は？ベティーは？キャサリンは？ゴンザレスは？これは一体誰なのよ!?
優治　部下だ
美香子　部下の名前を寝言でいうの？
優治　仕事熱心なんだよ
美香子　あなたって人はもう信じられない
優治　いや、それは・・・
美香子　別れましょ
優治　え？
美香子　私達別れましょ
優治　美香子・・・
美香子　久しぶりにその名前で呼んでくれたわね。いつも私を呼ぶときは「お母さん」私はあなたのお母さんじゃないわ
（大輔、万美子、着ぐるみを着た従業員2人、入る）
子供　わーーい、お母さん、お母さんコレ、、お母さんコレ
美香子　私はお母さんじゃないわ
子供　え？
優治　あっちで遊んでなさい

子供達　はい

（子供達、従業員二人、はける）

優治　お前はあの子達のお母さんじゃないか

美香子　でもあなたのお母さんじゃない

優治　そんなの当たり前じゃないか

美香子　じゃあなんで私をお母さんって呼ぶの？

優治　それは・・・

美香子　寝言の中でもいいから私の名前を出してよ

優治　努力します

美香子　私への愛がなくなったのよね

優治　いやぁ、愛してるよ

美香子　ほんとに？

優治　そこそこ

美香子　絶対に？

優治　ぼちぼち

美香子　今でも？

優治　こつこつと

美香子　やっぱり別れましょ

優治　お前・・・

美香子　お前じゃない

優治　美香子・・・

美香子　もう遅いわ

優治　美香子さん・・・

美香子　わざとらしい

優治　全部お前の誤解だよ

美香子　誤解じゃなくてこれは現実よ

優治　じゃあ子供たちはどうするんだよ

美香子　私が引き取る

優治　まだあんなに小さい子供をどうやって育てるつもりなんだ

美香子　あなたとの慰謝料でどうにかするわ

優治　俺はそんなの払えないぞ

美香子　むしりとってやる

優治　・・・こわっ

美香子　あなた、まだ気がついてないのね。今日なんでここで食事をしたか

優治　久々の家族団欒だろ？

美香子　やっぱり覚えてないのね

優治　なんだっけ
美香子　私たちの結婚記念日
優治　ああ、そうだっけ
美香子　プレゼントだってくれたのは最初の２，３年
優治　そうだっけ？
美香子　私はダイヤモンドを買ったのよ
優治　ありがとう。高かっただろ
美香子　まあね
優治　いくらだ？２０万？３０万？
美香子　桁が違うわ
優治　そんなに高いのどうやって買ったの
美香子　心配しないで。ローンよ
優治　そうか
美香子　あなたの名義の
優治　え？
美香子　わたしのために
優治　お前のか
美香子　当たり前じゃない
大輔　待てー
万美子　キャハハハハハハハ
美香子　大輔、万美子、帰りますよ
優治　まだ話は終わってないじゃないか
美香子　１０何年話をしてこれなかった者が今更どうなるものでもないでしょう
万美子　お父さん、早くかえろ
大輔　家に帰ってゲームやろうよ
美香子　もうあの人はお父さんじゃないの。これからはおじさんって呼びなさい
子供　オジサン？
美香子　そう、ご挨拶しましょ。さようなら、おじさん
子供　さようなら、オジサン
優治　さようなら
支配人　珈琲でもお持ちいたしましょうか、おじさん
優治　ウルサイ!!
支配人　この時ばかりはさすがの山田様も落ち込まれたようでございます。離婚という危機に直面したお二人ですが、反省した山田様の思いと、お二人のお子様の存在が奥様の心を動かし、何とか離婚という危機は免れたのでございます。こうして、

夫婦の危機を乗り越えたお二人ですが、すでに次の壁が待っていたのです

万美子　もう嫌だ！
優治　万美子
万美子　私帰る！
優治　待ちなさい
万美子　もう嫌なの！
優治　何が？
万美子　お父さん食べるの汚いし、くちゃくちゃ音立てるし、臭いし
優治　（従業員に向かって）おまえら、臭い？
従業員　（匂いを嗅いで）はい
優治　えっ!?
万美子　とにかく嫌なの
大輔　（くちゃくちゃ音を立てながら）万美子落ち着けよ
万美子　お兄ちゃんもそっくり!!もう嫌だ
支配人　お嬢様落ち着いて
万美子　うるさい!!
美香子　見て、きれいな夜景
万美子　お母さんもなんかいってよ
美香子　宝石箱みたいよ
万美子　もう帰る
優治　待ちなさい
万美子　触らないでよ
優治　そう怒るな
万美子　汚いのよ
美香子　きれいねぇ
万美子　汚いの!!
支配人　綺麗で・・・
万美子　うるさい!!
優治　何プリップリッ怒ってるんだ
大輔　お父さんがうっとおしいんだろ
優治　大輔!!　お前親に向かって
大輔　事実じゃん
優治　大輔!!
万美子　だから外食なんてしたくなかったのよ

大輔　俺も
優治　母さん、あんなこといってるぞ
美香子　反抗期ねー
万美子　反抗したくもなるわよ
優治　何で？
万美子　だってそうでしょ。大体あのお風呂は何
優治　温度か？
万美子　違う、毛よ毛
優治　毛？
万美子　お風呂に毛が浮いてるのよ
優治　髪の毛のことか？
万美子　違う。あれは髪の毛じゃない
優治　じゃあどこの毛だ？
万美子　どこでもいいでしょ
美香子　どこの毛なの？
支配人　奥様、それは・・・
万美子　うるさい!!それと昨日私の部屋に入ったでしょ
優治　朝のことか？
万美子　違う
優治　昼のことか？
万美子　違う
優治　夜のことか？
万美子　そう…何回はいってんのよ
優治　3回だ
万美子　勝手に部屋に入ってこないで
優治　お前達の寝顔可愛いな
大輔　俺の部屋にも入ってんの!?
優治　寝てるときのお前たち、好き
万美子　キモイ
大輔　ウザイ
万美子　エロい
大輔　ハズい
万美子　脂っこい
大輔　ダサい
万美子　筋肉
従業員　べちゃべちゃ

従業員　ぐちゃぐちゃ
従業員　どろどろ
従業員　むれむれ
万美子　足臭いし
大輔　手臭いし
万美子　毛穴臭いし
大輔　脇臭いし
万美子　目臭いし
大輔　頭臭いし
全員　とにかく臭い!!
美香子　お父さん？
（優治、プルプルしている）
優治　反抗期だと!?　俺も反抗期だー!!!
（美香子、大輔、万美子、支配人逃げる。従業員優治を抑える）
（優治いつの間にか裸に）
子供　キモイ
優治　（下を見て）キャッ!!

支配人　反抗期、親にとっては苦しいものですが子供の成長には必要なのでしょう。こうして反抗期も落ち着きまして、ようやく山田家にも平和がおとずれようとしたそのとき、突然悲しい出来事が立て続けに起こったのです。最初、奥様のお母様が急にお亡くなりになられ、何ということでしょう、続いてお父様もお亡くなりになられたのです。奥様の悲しみ、それはもう計り知れないものでございました。そんな奥様の様子を見るに見かねた山田様は少しでもお心が晴れればと、当店にいらっしゃったのでございます

（美香子がいすに座っている。優治は立って背を向けている）
美香子　うわ～ん
優治　泣くな
（美香子、泣き止まない）
優治　泣くな
美香子　うん。わかってる。
優治　わかってるんだったら泣くな
美香子　でも・・・うわ～ん

優治　義父さん葬式が済んでから１０日もたつぞ。その間ずっと泣き続けているじゃないか
美香子　だってお父さんがこんなに早く死ぬなんて思わなかった
優治　それは俺だって思わなかった。だからってお通夜の時から泣き詰めじゃないか。あのな、美香子。生きているものには全て終わりがある。飛んでるハエだってそうだ
美香子　私のお父さんがハエだって言うの？
優治　そういうことじゃない。ミミズだって、オケラだって・・・
美香子　アメンボだ～って～♪・・・じゃないでしょうね
優治　別にそういうことを言おうとしてるんじゃない・・・
美香子　あなたは・・・自分のお父さんじゃないからそんなことが言えるのよ。私がお父さんを知って４２年。あなたとめぐり合って１９年。私のほうがお父さんのよさをちゃんとしってるわ!!
優治　俺だってお父さんのよさを分かってるつもりだよ
美香子　いいえ。分かってないわ！だって・・・血がつながってないもの!!
優治　そりゃ、そうだよ
美香子　あなた・・・ひょっとしてお父さんを嫌ってたんじゃないの？
優治　いや、別に嫌ってはいなかったよ。ただ、好きではなかったやっぱり。初めてお父さんとであったあの日からでしょ
美香子　いや・・・それは・・・
優治　本当のことを言いなさい
美香子　そうです
優治　だから泣かなかったのね
美香子　いや・・・泣いてるよ
優治　どこで
美香子　心の中で
優治　嘘つき!!
美香子　そうかもしれない
優治　う～、お父さ～ん
支配人　ホラ御覧なさい。他人だって泣いてるじゃない
美香子　なんでお前が泣くんだよ
優治　悪いか!!
美香子　美香子・・・お前もし俺が死んだらどうするんだ
優治　きっと・・・また泣くわ
美香子　ずーっとか？
優治　そうだと思う

優治　死んでも死にきれないな
美香子　泣いちゃいけないの？
優治　死んでも辛さが残る。残りすぎる
美香子　じゃああなたは私が死んでも泣かないっていうの？
優治　泣かないよ
美香子　どうして？
優治　俺は泣かない。だってお前が死んだら俺もすぐに後を追いかけるからえ？
美香子　死んだお前を一人にしておくことはできないじゃないか
優治　それって？
美香子　お前にはどんなことがあっても寂しい思いはさせない
優治　あなた
美香子　死んでもずっと一緒だということだよ
優治　うん
美香子　美香子、もう泣くな
優治　うん・・・わぁ～ん
美香子

支配人　山田様の暖かいお気持ちがひしひしと伝わってくるようでございますね。奥様の涙もきっと天国のお父様お母様にも届いていることでしょう。さて、別の日にはこのようなこともございました

優治　うわ～ん
美香子　泣かないの
優治　うわ～ん
美香子　泣くな
優治　だって・・・。ぅぅぅ
美香子　あなたの会社が倒産してもう十日も経つのよ。その間ずっと泣き続けじゃない。
優治　だって…だって。こんなに早く倒産すると思わなかった
美香子　それは私だって思わなかった。だからって会社が潰れてからずっと泣き詰めじゃない。あなた、どんな形があるものもいつか壊れるわ。おもちゃだってそうよ
優治　俺の会社をおもちゃにするな。お前は自分の会社じゃないからそんなことがいえるんだよ。お前に巡り会って一九年、その半分は会社と結婚していたようなものだ

美香子　わかってるわよ
優治　いや、わかってない。だってお前働いてないもん
美香子　それはそうよ。私、パートかなんかで働けばよかった？
優治　そんなことを言ってるんじゃない。お前は事の重大さをわかってない。これからどうやって家族四人生活していけばいいというんだ。大輔は来年大学受験、万美子は中学生でまだこれからだぞ
美香子　だから？
優治　だっ、だかっ、だからって・・・、お、俺はクビなったんだぞ
従業員　（泣く真似で）あーーーーーーーーーー。
美香子　あなた達、黙りなさい
従業員　はい
美香子　ねぇ、あなた。わたし働くわ
優治　えっ？
美香子　なんとかなるわよ
優治　でも俺は会社を・・・
美香子　また新しく働けるところを見つければいいじゃない
優治　そんなすぐにはムリだよ
美香子　探すだけのことじゃない。いつまでもクヨクヨしたって仕方がない。二人でやり直すだけのことじゃない
優治　やり直す？
美香子　夫婦なんて二人三脚よ。そのために私がいるんじゃない。(肩に手を置く)死んでもずっと一緒でしょ
優治　美香子・・・
美香子　だから、もう泣かないでね
優治　うん。・・・わーん
美香子　(ビンタ)うるさい
優治　痛っ！

支配人　奥様の暖かいお言葉と愛の鞭で山田様は再びやる気を取り戻し、アルバイトながら仕事につくことがおできになり、奥様も仕事を始められたので生活に心配はなくなりました。共働きに抵抗を感じていた山田様ですが次第になれて行き、家事を分担するまでになられたのです。さてお二人のお子様ですが、それぞれ大学を卒業され、とうとう親の手を離れるときがやってきたのでございます

両親　これ!?
悠人　はい。これです
万美子　悠人くん。父と母です
悠人　万美子の父の山田です
美香子　母の美香子です
悠人　竹内悠人と言います。本日はお越しいただいて有難うございます(喋り続ける)
(優治無視)
優治　支配人。いつものやつ
(悠人以外座る)
優治　君、座らないのかね?
悠人　すみません
優治　ところで竹内君。私たちを招待したのには何かわけがあるのかね?
万美子　お父さん、それは話したでしょ
悠人　それはわかっとるよ。改めて彼の口から聞きたいんだ
万美子　悠人くん、ごめんね
悠人　いや、当然のことです。改めましてお父さん
優治　お父さんじゃないと言っておるだろう
悠人　では、山田さん
優治　でははいらない
悠人　山田!
優治　さんをつけろ。さんを
悠人　山田さん
優治　そう
悠人　娘さんをください
従業員　断るっ!
悠人　君たちには関係ないだろ
優治　竹内君。歳はいくつだ?
悠人　二八です
優治　二八かぁ
美香子　あなたのときと一緒ね
優治　そんなの関係ないだろ。ところで君は万美子のどこが気に入ったんだ
悠人　それはもう彼女の明るくて健康的なとことか
優治　ほー
悠人　笑顔がとっても可愛いし、なにより僕自身が癒されるとこですかねぇ。彼女といるととっても自分の気持ちが和むんです。そばにいるだけでハッピーな気持ちに

なるんです。彼女は僕の人生に絶対不可欠な人なんです
(途中で万美子の携帯が鳴り万美子応答)
万美子　今日は電話してこないでっていたでしょ！食事！親とだって
悠人　誰？
万美子　友達。もう切るからね
悠人　男？女？
万美子　男
悠人　・・・
(座る)
悠人　それから、ちっちゃいところも可愛いし、じっとしてないとかなんか特に好きなんです。彼女はいつも僕に頑張りなさいって叱ってくれるんです。気の弱い僕にとってこんなに心強い人はいません。それにその叱り方が普通の人とは違うんです。叩く。つねる。殴る蹴る。これは大きな彼女の愛の印なんです。心が打ち砕かれそうになったとき、彼女のお叱りでときどき体まで砕かれそうになりますが、それを持ちこたえてこそ僕らの愛は育まれると思うんです
(途中で再び万美子の携帯が鳴り万美子応答)
万美子　もしもし久しぶり。ごめんね、今親と食事中なの。えっ、今夜。ダメ。明日？ヤダ。だってさホテルのプールで変なことするんもん。ドライブ？ドライブもヤダ。だってさあんなことしたじゃん。あれ？履いてる履いてる。ありがと
万美子　うるさい！ごめんねぇ。2、3日したらまた電話して。じゃあね
悠人　だから誰なの？
万美子　お友達
悠人　友達？
(万美子座る)
優治　お前友達たくさんいるんだな
万美子　社交的なだけよ
優治　竹内君、座ったほうがいい
悠人　それからですね、(べらべら話し続ける)
優治　わかった。君が万美子に惚れてることはよくわかった。で、万美子は竹内くんのどこが気に入ったんだ？
万美子　便利なとこ
優治　便利？竹内くん、君は便利なのかね？
悠人　はい。とっても便利
優治　他にはないのか？
万美子　収入が安定してるとこ

優治　会社は絶対じゃないぞ
万美子　だって公務員だもん
優治　潰れることはないなぁ
万美子　それとプレゼントくれるし、送り迎えしてくれるし、奢ってくれるし、なんでも私の自由にしてくれるとこも好きだよ
優治　結婚したら料理はどうするんだ？
悠人　僕がやります
優治　洗濯は？
悠人　僕がやります
優治　掃除は？
悠人　僕がやります
優治　君はそれで幸せなのかね？
悠人　日本一の幸せ者です
優治　万美子、お前は一体彼にどんな手を使ったんだ？
万美子　女の魅力全部よ
優治　お前は最低の女だな
万美子　最低？（悠人に）最低の女だって
悠人　最高の女です
優治　君はこれでいいのか？
悠人　万美子さんを僕にください
従業員　断るっ！
（大輔登場）
大輔　ごめん。遅れちゃった
万美子　お兄ちゃん遅い
大輔　途中で大学時代の友達に会って、話し込んでたら遅くなった
万美子　今日が私にとって大事な日だってわかってたんでしょ？
大輔　わかってたよ。君が万美子の婚約者？
（悠人、立つ）
優治　まだ婚約してない
大輔　歳はいくつ？
悠人　二八です
大輔　僕と一緒だ。万美子の兄の大輔です
悠人　婚約者の竹内悠人です
優治　まだ婚約してない
大輔　弟！
悠人　お兄さん

大輔　弟!!
悠人　お兄さん!!
大輔　弟!!!
悠人　お兄さん!!!
大輔　よろしくお願いします
（握手）
悠人　こちらこそよろしくお願いします
大輔　わがままな妹だけど幸せにしてやってくれ
悠人　力一杯頑張ります
大輔　僕もいつまでも力になるよ
悠人　有難うございます
大輔　万美子、おめでとう。お兄ちゃんとってもうれしいよ
優治　まだ許可したわけじゃない
大輔　反対されたら駆け落ちでも何でもしろ
優治　か、駆け落ち？
悠人　お兄さん
大輔　二人の幸せにだれも口を挟むことなんか出来ないよ
悠人　うぅっ(従業員も泣く)
大輔　泣くな、弟
悠人　感動してます
大輔　漢は涙を見せるもんじゃない
悠人　お兄さん
大輔　妹を頼んだぞ
万美子　お兄ちゃん
大輔　あとは俺が引き受けた。お前たちは駆け落ちの準備をしろ
優治　本当にするのか？
大輔　もう時間は無い
悠人　はいっ！万美子
優治　待ちなさい！
悠人　お父さん、すみません
(悠人と万美子、階段を上る)
優治　許さん。俺は絶対に許さんぞ。だって今日あったばかりじゃないか。何でこんなことになるんだよ
大輔　万美子、そして弟。またいつか
優治　お前たち、一体どこへ行こうというんだ
悠人　幸せに向かって、いってきます！

万美子　ほら行くよ(万美子、悠人のネクタイ引っ張り逃げる)
優治　おい、待て。待て。早まるな。おい大輔。一体なんて事言ってくれるんだなんで？
大輔　お前のせいでまみこは駆け落ちしたんじゃないか
優治　別にいいじゃん
大輔　今日は竹内君を紹介するというだけの話だったんだぞ
優治　それが駆け落ちしちゃったんだもんね。大胆
美香子　駆け落ちするくらい二人の愛が深かったてことだよ
大輔　お前がそうさせたんだろう
優治　どっちにしてもお父さんは誰が来ても反対したと思うよ
大輔　そんなことは・・・
優治　そうよね。お父さんはきっと反対すると思うわ
美香子　お父さんはいつも自分の意見を押しつけてるんだ。それが正しいと思ってる。そうでしょ？
大輔　生意気なことを言うな
優治　生意気？俺もう二八だよ
大輔　二八でろくに仕事も見つけてないくせに
優治　仕事ねぇ
大輔　漢は自分の仕事ややりたいことを見つけて初めて人にものを言えるようになるんだ
優治　見つけたよ
大輔　どんな？
優治　青年海外協力隊
大輔　青年海外協力隊？外国に行っちゃうの？
美香子　そう
大輔　それが仕事か？
優治　自分がやることを見つけたということ
大輔　金にはならんぞ
優治　ボランティアだよ
大輔　それがお前の一生の仕事？
優治　わからない。何を本当にやっていけばいいのかを見つけるために、俺は海外に出て大きいところから自分を見つめ直したいんだ
大輔　どこに行くの？ハワイ？パリ？
美香子　もっと辺鄙なところさ
大輔　許さん。俺は絶対に許さんからな。お前はまだ人生を分かっていない。俺の会社が倒産して俺はコンビニの店員となり母さんは…塾の個人経営を始めた。収入の

差はあるが俺は気にしていない。そうやって辛い思いをしても一生懸命お前たち2人を育ててきたんだ。お前は人生を甘く見ている

大輔　またお説教？でも俺には俺の人生、お父さんにはお父さんの人生がある

優治　母さんもなんか言ってやれよ

美香子　私はいいと思うわ

優治　母さんまで

美香子　いつ行くの？

大輔　明日の朝

美香子　そう

優治　明日の朝ってちょっと、お前

大輔　もう時間はない。お母さん、今までありがとう

優治　大輔、待て

大輔　さようなら、お元気で

優治　大輔!!大輔!!俺は許さんぞ!!

支配人　万美子様も大輔様のすすめとはいい、いやはや大胆なことをなさいますね。その上大輔様も海外へ・・・このようなことになるとは、山田様も思いもしなかったのではないでしょうか。しかし、駆け落ちした万美子様はしばらくしてご夫婦で戻っていらっしゃいました。始めはお二人の結婚に反対していた山田様ですが、戻ってきたお二人を見て結婚をお許しになられたのでございます。一方大輔様も数年立って先日、無事帰国されました。それから数ヶ月たった本日、ご家族皆様は久しぶりに当レストランにお越しになられたのでございます

プーペ　あｑｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ；@(お祈り)

万美子　お兄ちゃん、これ何？

大輔　仕方ない。宗教の違いだよ

悠人　どこの国ですか？

大輔　ガボベルデ共和国のナンターレ部族

万美子　いつもやってんの？

大輔　決まった時刻にね

悠人　僕は始めて見ました

万美子　青年海外協力隊で得たものはお嫁さん？

大輔　それと双子の子供

万美子　お嫁さんを探しに海外に言ったってことね

大輔　まあ、そうなるかな
悠人　今お兄さんは何をなさってるんですか？
大輔　百均のバイト
万美子　海外に行ったってお父さんと変わらないじゃない
大輔　そうかもしれないな。お前たちはどうなんだ？
悠人　幸せですよ
大輔　お前はそうだろうね
万美子　私は変わらないわよ
大輔　子供は？
万美子　作る気ないもん
悠人　僕は欲しいんですけど…
万美子　私はその気は無いの
悠人　わかってますよ。でも僕たちが一緒になってもう7年ですよ。そろそろ子供の一人や二人
万美子　嫌だって言ってるでしょ。遊ぶ時間がなくなるじゃない
大輔　お前まだ相変わらず遊んでんのか？
万美子　余計なお世話
（電話なる→すぐ切る）
悠人　誰？男？
万美子　当たり前でしょ
プーペ　あｑｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ；@、ハッハッハハァー（お祈り終了）
大輔　プーペタリアーノ、もうお祈りは終わったのかい？
プーペ　オトーサン、オトーサン。アン
（優治&美香子登場）
従業員　いらっしゃいませ
支配人　お待ち申し上げておりました
優治　支配人、お久しぶり
支配人　ようこそ、山田様
優治　おぉ、ポポリアーノ、ペペリアーノ。元気してたか？
万美子　ポポリアーノ、ペペリアーノ？変な名前
優治　おぉ、プーペタリアーノも元気にしてたか？
プーペ　オトーサンのオトーサン。アン、アンアン
優治　おぉ、そうかそうか…何を言ってるか全然わからん
悠人　お父さん、お誕生日おめでとうございます。
優治　いや、ありがとう
美香子　お父さん楽しみにしてたのよ。みんながこうやって集まってくれること

万美子　よりによって誕生日なんてわざとらしい
大輔　しょうがないよ。父さん、そういう性格だから
美香子　誕生日に集まってもらおうとしたのは私の考え。お父さんは嫌がったんだけどね
優治　こいつはいつも出過ぎたことをする
万美子　お母さんも相変わらず苦労してるのね
優治　その嫌味な性格、まだ直ってないのか
万美子　悪いとこを直そうとしないのはお父さんの血よ
優治　変なところを似るんじゃない
支配人　奥様、よろしいですか？
美香子　お願いします
優治　何だ何だ？なにか始まるのか？
美香子　お店からのプレゼント
優治　何？
支配人　んー
従業員　んー
(従業員、ハッピーバースデイを合唱)
(優治以外、拍手。口々に「おめでとー」って言う)
優治　何かこういうのは俺には合わん
悠人　いや、今の天使の賛美歌はお父さんだからこそ合うんですよ
万美子　あなた、歯が浮いたようなこと言わないの
悠人　ごめん
大輔　弟。まだ尻に敷かれてるのか？
悠人　相変わらず
プーペ　アン、アンアン
優治　わかった、わかった。感謝してる、感謝してるよ
プーペ　アンー
美香子　乾杯しましょ。お父さん、いつもありがとう。お父さんの六五歳の誕生日にまたこうしてみんながそろって祝え…、いわぇ…(倒れる)
(優治以外、美香子に駆け寄る)
万美子　救急車、救急車っ！
従業員　はい、かしこまりました
従業員　私が背負いましょう
大輔　いや、僕がやります
悠人　お兄さん、僕がやります
大輔　いや、いい

悠人　でも
美香子　あなた…
優治　どけぇ！
（優治、美香子背負う）
悠人　お父さん。僕が持ちます
大輔　父さんにはムリだよ
従業員　もうすぐ救急車が来ますから
優治　触るなっ！俺の美香子に触るなっ！
（優治、美香子を背負い台詞をかけながら出口まで）
優治　美香子、しっかりしろ！今倒れてどうするんだ。どこが痛い？聞こえるか？返事をしろ！美香子、聞こえるか？美香子、美香子！

支配人　すぐに救急車で病院へと運ばれ、幸い命に別状はございませんでした。過労で倒れられたそうです。山田様は救急車の中でも病院についてからも奥様のそばを離れようとはせず、すっと手を握っていいらっしゃいました。意識が戻ってからもしばらくつきっきりで看病なさっていました。その甲斐あってか、奥様の容態はみるみる回復し、無事退院することができました。それからは、山田様は今まで以上に相手を思いやり夫婦仲むつまじく歳を重ねていったのでございます。そして、結婚５０年目の本日、ご家族皆様は当レストランにてお二人の金婚式をされることとあいなりました。

万美子　走るな、こらっ！
ポ＆ペ　クソジジ、クソジジ
優治　待てー
万美子　お父さん、なに年甲斐もなく走ってんのよ
優治　孫に馬鹿にされてたまるか
ポ＆ペ　クソジジ
優治　こらっ
万美子　お兄ちゃん。一体どんな教育してんの？
大輔　自由奔放な教育だ
万美子　もう十三の中学生でしょ。少しは躾ぐらいしなさいよ
大輔　宗教の違いだな
プーペ　マミコ。アン、アンアン
万美子　言ってることわかんない

プーペ　アンー
美香子　子供はいつまでも元気なものよ
悠人　いいなぁ子供。万美子やっぱり
万美子　しつこい！
悠人　ごめん
万美子　今日はお父さんとお母さんの金婚式の祝いよ
大輔　だからこうしてみんなで集まってるんだろ
万美子　金婚式のときぐらい子供たちにおじいちゃんとおばあちゃんを大切にしなさいって言っときなさいよ。何あのくそじじ、くそじじって？プーペタリアーノ？あんたが教えたの？
プーペ　クソジジ
ポ＆ペ　クソジジ、クソジジ
万美子　とまれ
ポ＆ペ　(ピタッってとまる)
万美子　誰がくそじじなの？
ポ＆ペ　クソジジ
優治　ポポリアーノ、ペペリアーノ
ポ＆ペ　(優治のほうに顔を向け)アン
優治　わしはおじいちゃんだ。おじいちゃんって言ってみろ
ポ＆ペ　おじいちゃん
優治　わかったか？
ポ＆ペ　アン、クソジジ
優治　まだわからんのか
万美子　お父さん、もうムリね
優治　そうだな
大輔　今日は二人とも金婚式のお祝いに来てくれてありがとう
ポ＆ペ　アン、おばあさん
優治　なんでこいつだけおばあさんなんだ
ポ＆ペ　アン、クソジジ
優治　むかつくー
大輔　お父さん、僕たちこれで失礼するよ
優治　そう
美香子　今日はほんとにありがとう。とっても楽しかったわ
万美子　じゃあ私たちも
大輔　お前たちはもう少しいてやれよ
悠人　すいません、お兄さん。ちょっと用事が

大輔　用事？
万美子　これからパーティーがあるの
大輔　そうか、お前ら2人でパーティーか
悠人　いえ、僕は送っていくだけです
大輔　相変わらずだな
美香子　そう。悠人さん。万美子がいつもごめんなさいねぇ
悠人　当然のことですから
万美子　なんだったら二人とも送ろうか？
美香子　ううん、ありがとう。私はもう少しおじいちゃんとここにいるわ
大輔　母さん、父さん。これ
優治　何だ？
大輔　旅行券。たまには二人でどっか行ってきなよ
万美子　へぇー。お兄ちゃんそういうことするんだ
大輔　親孝行のまねごとだよ
悠人　お父さん、お母さん。これ、僕たちから
美香子　何？
悠人　二人の金婚式のお祝い
優治　ありがとう。お前たちにこうやって祝ってもらえるだけでうれしいのにその上プレゼントまでもらえるなんて
美香子　あなた、オルゴールよ
万美子　あんたもなかなかやるじゃない
悠人　ごめん
万美子　ばかっ
(オルゴールが鳴る→泣きそうになって美香子オルゴール閉じる)
大輔　じゃあか帰ろうか
万美子　うん。じゃあお兄ちゃん、またね
大輔　おう。弟、早く子供作れ
悠人　はい。今度こそ
優治　今度の正月はみんなで集まろうな。まだ正月には一度も集まったことがない
大輔　正月かぁ
万美子　そうしましょ
大輔　暮れから泊まりに行こうかな
優治　そうしろそうしろ
万美子　じゃあお父さん、お母さん。楽しみにしてるわ。それじゃ
優治　ポポリアーノ、ペペリアーノ

ポ&ペ　アン
優治　お年玉いっぱいやるからな
ポ&ペ　アン、クソジジ
優治　こらっ！ほんとあいつらときたら
支配人　山田様。コーヒーでもお持ちしましょうか
優治　いや、わしらはいい
支配人　(一礼)
優治　ばあさん
美香子　二人だけのときに「ばあさん」はないでしょ
優治　美香子
美香子　なぁに、あなた
優治　この五十年、いろんなことがあったな
美香子　そうですね。あなたのわがままに振り回されてきたわ
優治　そうか。すまなかった
美香子　いいのよ。それがまた魅力だったんだから
優治　幸せとだなと思ったときもあった。こんな不幸なときがあるのかとも思った。長いようであっという間だったよな。お前、幸せって何だと思う？
美香子　あなたとずっと一緒にいること(優治にの肩に頭を乗せる)
優治　それがいいのか？
美香子　だっていろいろなことがあって人生楽しいもん
優治　まだこれから先なにがあるかわからんぞ
美香子　私はずっと一緒にいるわ
優治　苦労するぞ(美香子の肩に頭を乗せる)
美香子　幸せも苦労もみんなあなたと一緒(優治の腿に手をを乗せる)
優治　そうだな(美香子の手を握り締める)

支配人　この後のお二人について少しお話をさせていただきましょう。お二人はそれは穏やかに過ごされ奥様は3ヵ月後、山田様はその半年後にそのお言葉通り後を追うようにお亡くなりになられました。―はい、以上が私の話でございます。山田様の素晴らしい人生いかがでしたでしょうか。―え？ここのどこが幸せなのか、でございますか？―いえいえ、おっしゃるとおり山田様の人生幸せなことばかりではございませんでした。不幸が続き途方にくれたこともございました。人生の崖っぷちに立たされたこともございました。しかしながらこうして紆余曲折を経てお二人が手にしたものは、やはり幸せだったのでございます。平凡な日常の幸せ

と不幸せの繰り返し、その中にこそ本当の幸せがあるのではないでしょうか。お二人も最後にはこの幸せに気づくことができたのです。―いえいえ、決してこの山田様が特別なわけではございません。山田様もこの幸せにたどり着くことができると私は思います。そして、その幸せに気がついていただくためにこのレストランはあるのかもしれません。―え？お前はこの５０年全てを見てきたのか、とお聞きですか？ええ、そのとおりでございます。―その割には歳をとっていない？（笑）不思議とこのレストランにおりますと歳をとることがありません。それが私の幸せというものでございます

（ダンス）

支配人　幸せのレストランへ

全員　ようこそ!!!

――幕――